



PRESS RELEASE

報道関係者各位

2025 年 6 月 10 日

大阪湾の自然再生と万博・夢洲のネイチャー・ポジティブを提言 RSPB と日本の自然保護団体、大阪市長・大阪府知事に共同書簡を送付

- ・英国王立鳥類保護協会（RSPB）と国内の自然保護団体 6 団体は、2025 年大阪・関西万博を契機とした大阪湾の自然再生を提案する共同書簡を大阪府知事・大阪市長宛に送付した。
- ・書簡では、世界に 800 羽以下しかいない絶滅危惧種ヘラシギにとって大阪湾が重要であることに触れ、夢洲に残された水辺の保全や沿岸湿地の再生を進めるべきだと提言した。
- ・ネイチャーポジティブの実現のために、英国の自然保護の専門知識を活かして、大阪湾が国際的な沿岸生態系の保全のモデルケースとなることを願うと言及した。

英国最大の自然保護団体である英国王立鳥類保護協会（RSPB）と、公益財団法人日本自然保護協会（理事長：土屋 俊幸、以下「NACS-J」）など国内の自然保護団体 6 団体は、2025 年大阪・関西万博を契機とした大阪湾の自然再生を提案する共同書簡（5 月 29 日付）を、2025 年 6 月 10 日に大阪府知事・大阪市長宛にメールで送付しました。

本書簡では、かつて渡り鳥・ヘラシギの日本有数の重要な中継地であった夢洲の湿地が、万博会場開発によって大きく損なわれた現状に触れ、水辺の保全・沿岸湿地の再生すべきであること、今後「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の国際的なモデル地域としていくべきだと提言しています。

主な共同書簡のポイント

- ・夢洲の水辺を水鳥のために保全・管理すること
- ・大阪湾内の沿岸湿地を保護・再生・また新たに創出すること
- ・これらの保全取り組みを、2025 年大阪・関西万博の期間中に公表すること

この英日の共同書簡の提言は、万博のテーマである「SDGs 達成への貢献」を具体化するものであり、生物多様性の危機に対する国際的な連携の一環でもあります。

私たちは、万博を契機に、大阪湾が未来の都市と自然の共生を示す象徴的な地域となることを願い、そのために、知事や市長、関係部署との建設的な対話を要望します。

（配布資料）

- ・ Letter to Osaka City and Prefecture from RSPB & Japanese NGOs re Nature Positive（英文）
- ・ Letter to Osaka City and Prefecture from RSPB & Japanese NGOs re Nature Positive（和訳）
- ・ Briefing for Osaka Governor and Mayor on Nature Positive Response to Expo 25 in Osaka Bay

< 参考 >

英国王立鳥類保護協会（RSPB : Royal Society for the Protection of Birds）

1889 年に設立し、英国に本拠を置くヨーロッパ最大の自然保護団体で、会員数は 120 万人以上。鳥類を中心に、生態系全体の保護を目的として英国全土および世界中で活動している。

公式サイト：<https://www.rspb.org.uk/>

公益社団法人・大阪自然環境保全協会

身近な自然を愛し、これを守り育てたいと願う市民が運営している民間の自然保護団体です。1976 年に社団法人として設立されました。

ボランティアを中心に活動を行っており、2024 年 4 月現在の会員は約 700 名です。

公式サイト：<https://www.nature.or.jp/index.html>

日本野鳥の会大阪支部

日本野鳥の会大阪支部では、野鳥保護思想の普及や野鳥が生息する自然環境の保全や回復のために、取り組んでいます。

夢洲をはじめ大阪湾の野鳥を守るために、生息環境の保全や回復に向けての取り組みをすすめています。

公式サイト：<https://wbsjosaka.com/bird/>

本リリースに関するお問合せ

- ・公益社団法人・大阪自然環境保全協会 垣井 清澄（かきい きよすみ）

Tel: 080-6138-8595 Email: kzkz@iris.eonet.ne.jp

- ・日本野鳥の会大阪支部 納家 仁（なや ひとし）

Tel: 090-1139-8901 Email: naya78148901@gaia.eonet.ne.jp